

別冊

平成29年度まちなか生活実態調査 報告書（概要版）

元気づくり総本部元気づくり推進局
とっとり暮らし支援課

平成29年10月

■ 調査の概要

1 調査の目的

県内都市部における人口減少・高齢化の進行に伴うコミュニティ活動の停滞、災害時対応への不安、空き家の増加、買い物弱者の発生などの実態把握と支援施策検討の基礎資料とする。

2 調査対象

- (1) 世帯調査：指定した16地区から無作為に抽出した14,189世帯
- (2) 自治会（町内会）調査：指定した16地区の全275自治会（町内会）

3 調査地区

鳥取市：久松、醇風、遷喬、日進、明德、中ノ郷、末恒、若葉台【新規】
 米子市：啓成、明道、就将、義方（各地区の一部）、永江【新規】
 倉吉市：成徳、明倫
 境港市：境

4 調査方法 配布調査（世帯調査は無記名調査）、郵送回収

5 調査基準日 平成29年6月1日（木）

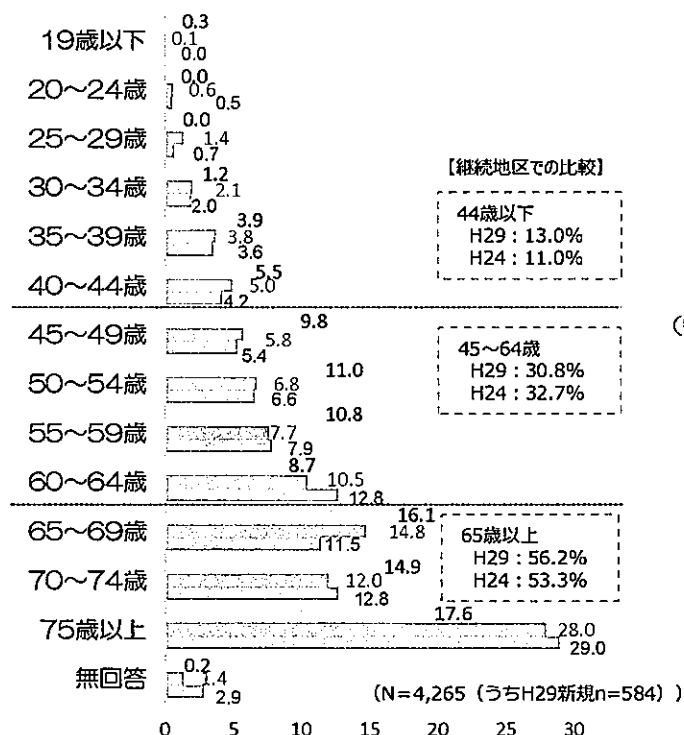
6 回答率 世帯調査：30.1%（4,265/14,189世帯） 自治会（町内会）調査：68.0%（187/275自治会（町内会））

■ 世帯調査

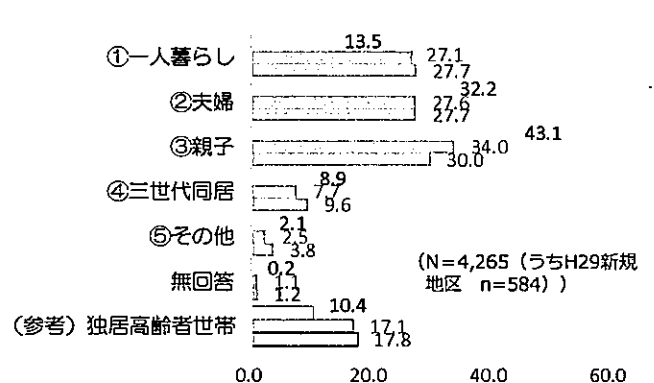
1. 調査対象者（属性）

回答者の年齢は75歳以上が最も多くを占める。
 家族構成は一人暮らし、夫婦、親子がそれぞれ約3割程度であり、三世同居は約1割となっている。
 住まいの形態は戸建てが8割近くを占め、マンション等の集合住宅は2割程度となっている。

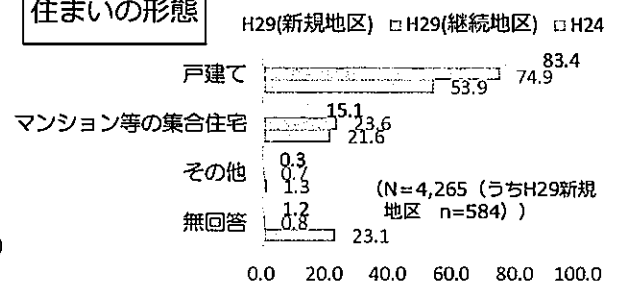
回答者の年齢区分



家族構成



住まいの形態



2. 住まいについて

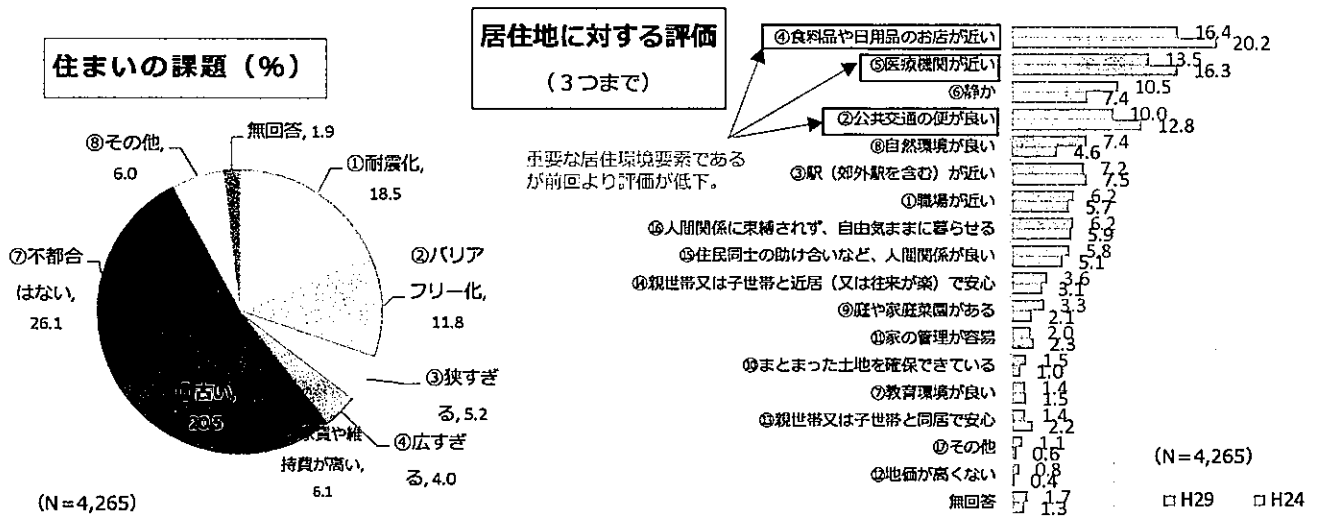
住み続けたいと考えている方が6割以上となっており、住まいの課題としては耐震化やバリアフリー、老朽化に課題を感じている方が半数以上(50.8%)を占めている。

※居住意向は平成24年度の調査に比べて「住み続けたい」が5.6%減、「いずれは転居したい」が2.2%増となった。

(1) 現在の住まいの課題と評価

現在の住まいの課題は、「不都合はない」が26.1%と最も多く、次いで「古い」が20.5%、耐震化が18.5%、バリアフリー化が11.8%と続く。

居住地の評価は、「食料品や日用品のお店が近い」が16.4%と最も多く、次いで「医療機関が近い」13.5%となった。前回調査と比較すると評価の割合が減少している。

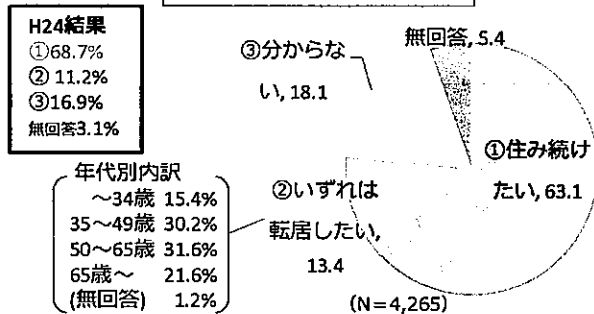


(2) 住まいに関する今後の意向

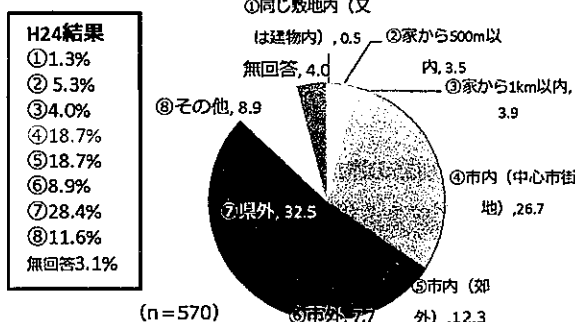
居住に関する今後の意向は「住み続けたい」が63.1% (対前回比△5.6%)と最も多い。転居希望者の転居先は「県外」が32.5%と最も多く、「市内(中心市街地)」は26.7% (対前回比+8.0%)を占める。

「居住環境として優先する条件は、「食料品や日用品のお店が近い」が20.8%と最も多く、次いで、「医療機関が近い」14.2%「公共交通の便が良い」が12.4%となった。

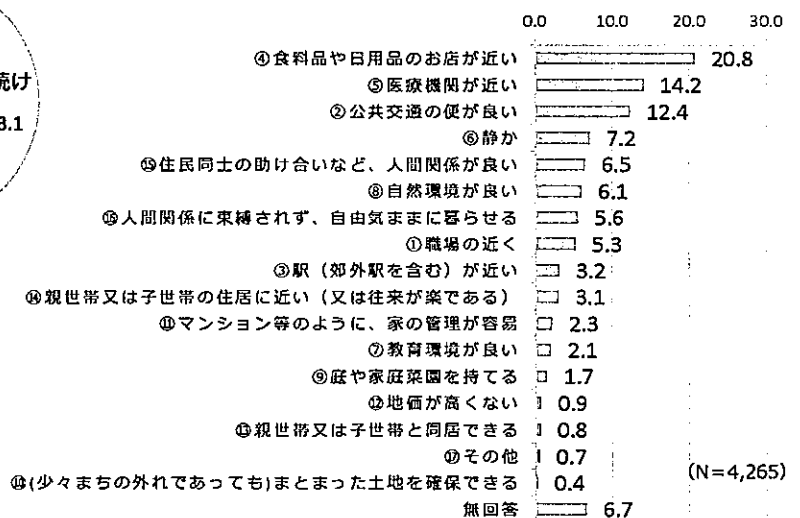
今後の居住意向 (%)



転居希望の場合の転居先 (%)



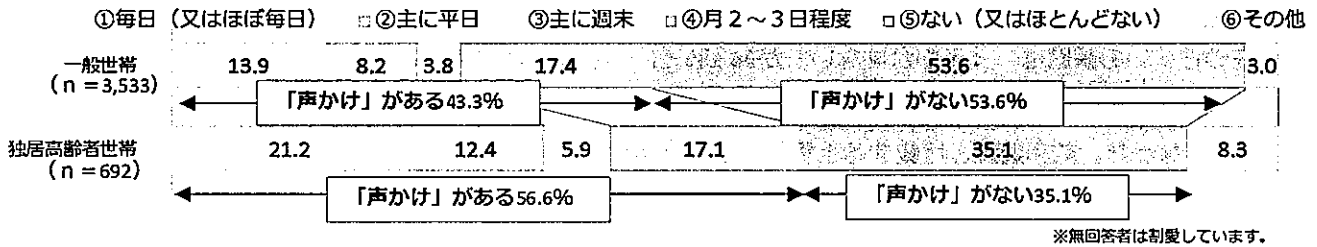
居住環境として優先する条件 (%) (3つまで)



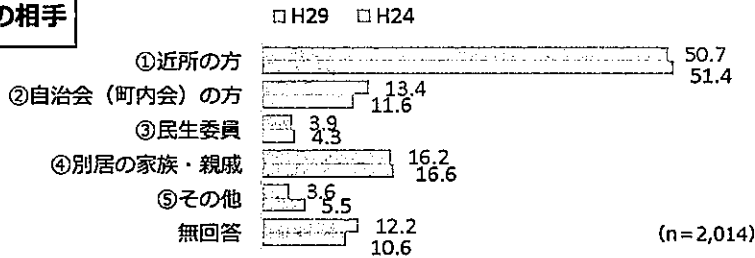
3. 暮らしの安心（声かけ）について

声かけの相手は「近所付き合いによる声かけ」が約半数を占めた。
一方で、声かけの頻度が「ない（又はほとんどない）」との回答が一般世帯で53.6%、独居高齢者世帯で35.1%となった。

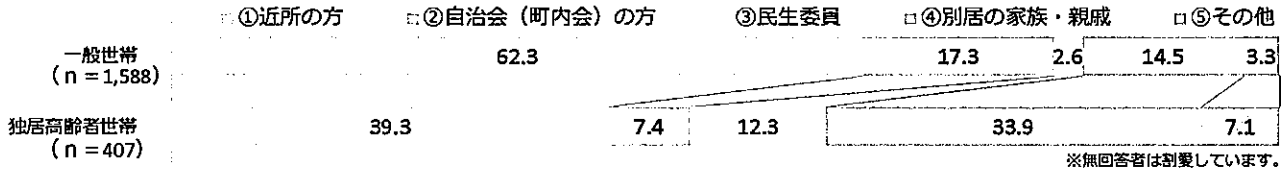
世帯類型別 「声かけ」の頻度 (%) 全体 (n=4,225)



声かけの相手



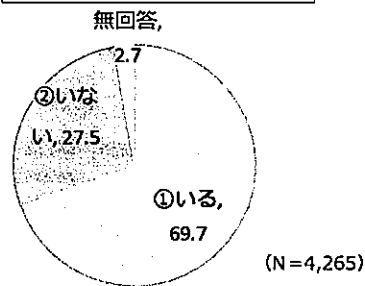
(参考) 世帯類型別 「声かけ」の主な相手 (%) 全体 (n=2,014)



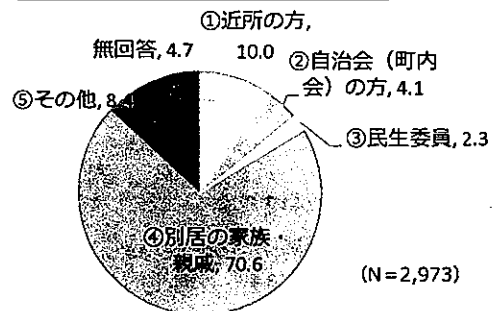
4. 暮らしの安心（相談・不安）について【H29新規】

約7割と大半の方に相談相手が存在し、安心できる暮らしの環境が確保されている。一方で、独居高齢者の方は、「近所の方」に次いで「別居の家族・親戚」に相談する方が多い。

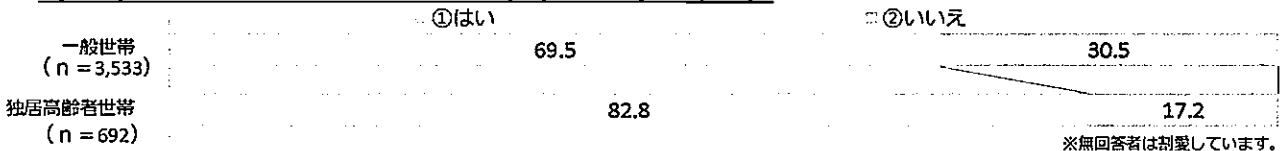
相談相手の有無 (%)



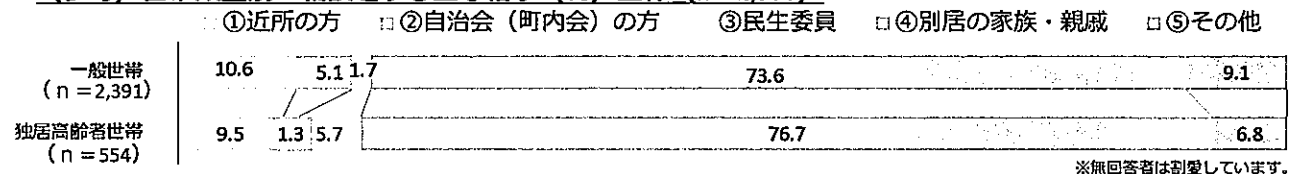
相談をする主な相手 (%)



(参考) 世帯類型別 相談相手の有無 (%) 全体 (n=4,225)



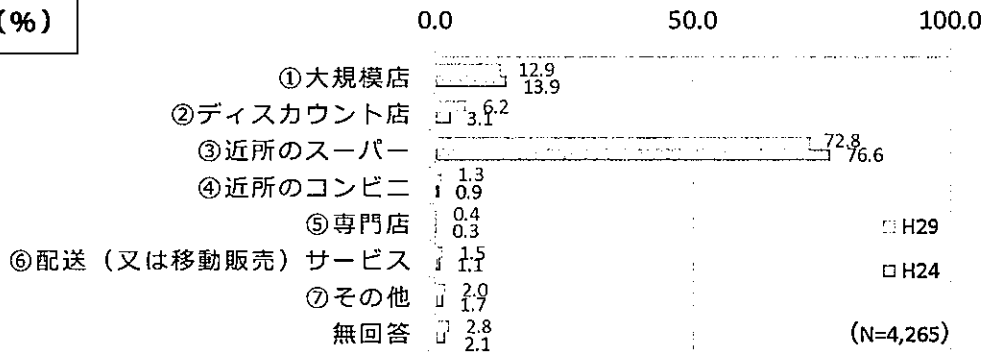
(参考) 世帯類型別 相談をする主な相手 (%) 全体 (n=2,973)



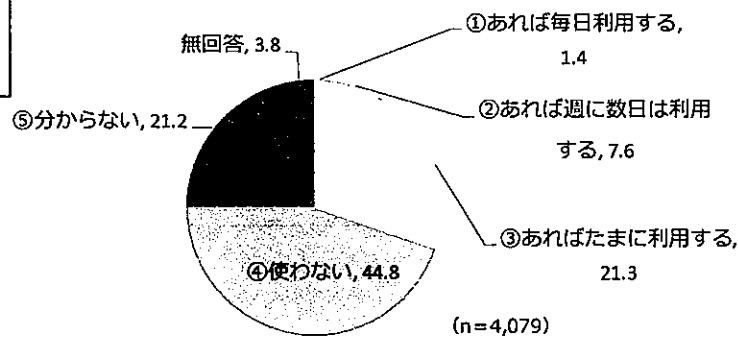
5. 買い物（配送、移動サービス）について

日常の買い物先は、近所のスーパーが72.8%となっており、配送サービスの利用は1.5%にとどまっている。また、配送サービスがあっても「使わない」が約4割となり、一般世帯、独居高齢者世帯でも利用意向に大差はない。また、鳥取市の郊外及び米子市の郊外においても利用意向に大差は無い。一方で、配送サービスを何らかの形で利用したいと考える方が約3割存在する。

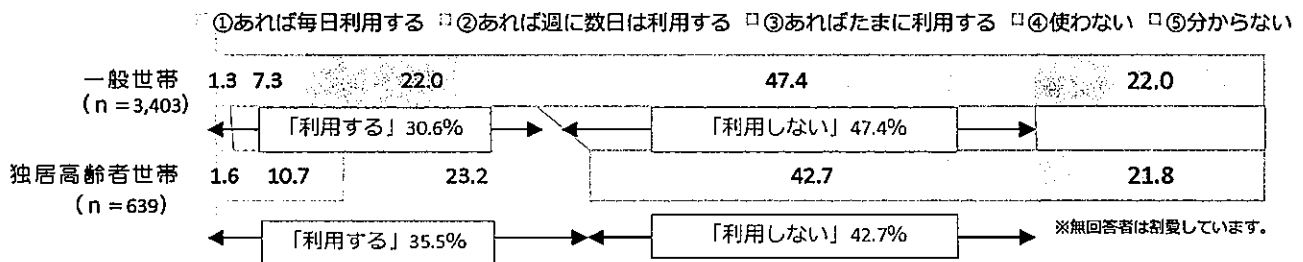
日常の買い物先（%）



配送（又は移動販売）サービスの利用意向



（参考）世帯類型別 配送サービスの利用意向（%）全体（n=4,079）



配送サービスの利用意向／居住エリア（%）

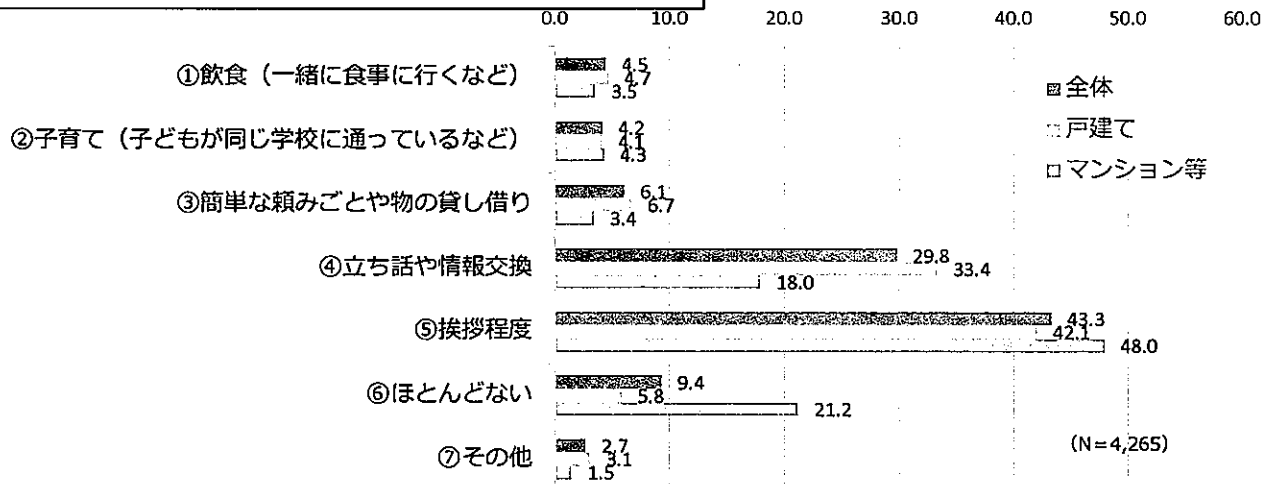
	鳥取市			米子市			倉吉市	境港市	無回答	全体割合 (%)		
	中心	中活	郊外	中心	中活	郊外	中心					
①あれば毎日利用する	1.0	1.5	1.3	0.5	2.3	2.7	2.7	0.9	1.2	0.7	3.3	1.4
②あれば週に数日は利用する	6.8	7.0	6.5	6.5	8.0	7.8	7.8	9.0	9.0	8.4	9.8	7.6
③あればたまに利用する	22.0	20.7	21.6	23.6	20.4	19.2	19.2	24.7	22.9	15.7	21.3	21.3
④使わない	45.3	47.3	47.1	42.9	44.6	45.4	45.4	41.7	41.1	50.2	41.0	44.8
⑤分からない	21.1	19.5	20.2	23.1	20.7	21.1	21.1	19.3	21.9	23.3	13.1	21.2
無回答	3.7	4.0	3.4	3.4	4.1	3.9	3.9	4.5	3.8	1.7	11.5	3.8
（全体に対する各地域等の割合）	52.0	28.7	16.7	23.3	24.8	19.3	19.3	5.5	14.7	7.0	1.5	100.0

6. コミュニティ（ご近所づきあい）

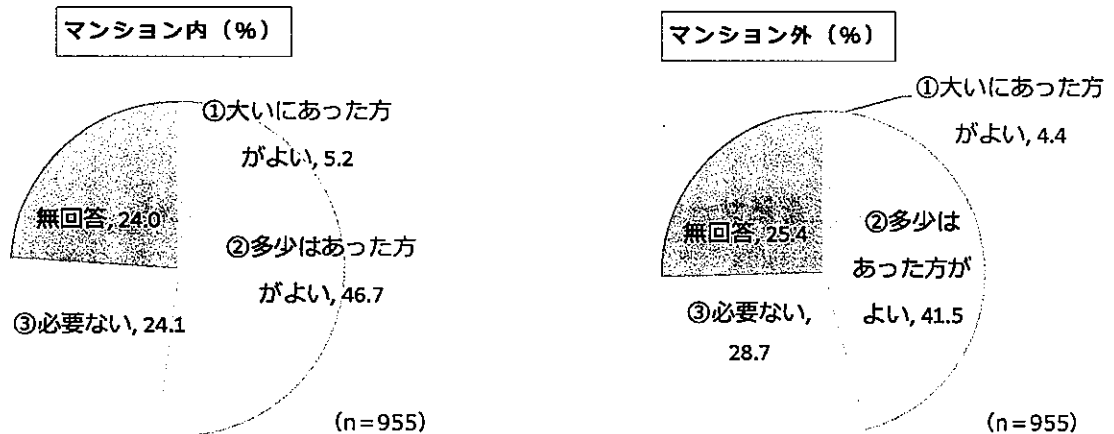
日常の近所付き合いは「挨拶程度」が43.3%と最も多く、次いで、「立ち話や情報交換」が29.8%、「ほとんどない」が9.4%の順となった。住まいの形態別で見ると、マンション等世帯は「ほとんどない」が戸建てに比べ多くなっている。

マンション等世帯に居住する方のご近所付き合いに対する考え方として、マンション内でもマンション外の方へも多少の付き合いはあった方が良く考える方が多い。

日常の近所付き合い（%）（住まいの形態別）（いくつでも）



近所付き合いの状況/マンション内外での付き合いのあり方（マンション等世帯のみ）

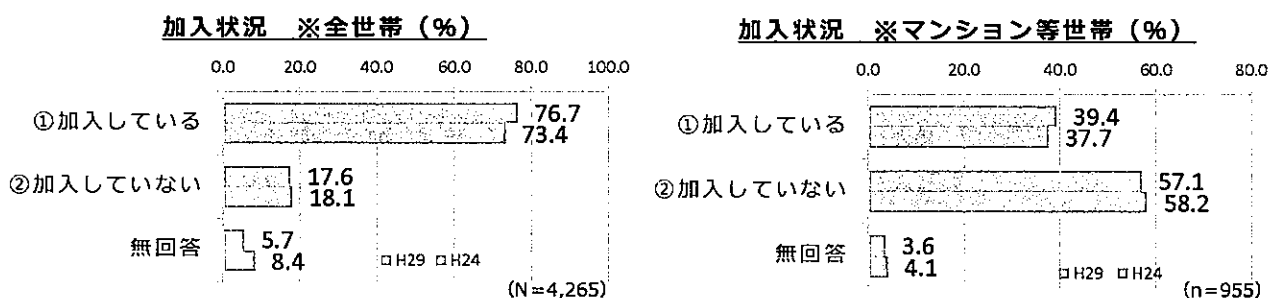


7. コミュニティ（地域の自治会（町内会）の加入状況、地域活動）

自治会へは約8割（76.7%）の方が加入しているが、マンション等世帯では約4割（39.4%）に留まっている。地域活動へ参加していない25.3%の方が参加されない理由として「面倒」「声がかからない」「時間の束縛」が挙げられている。

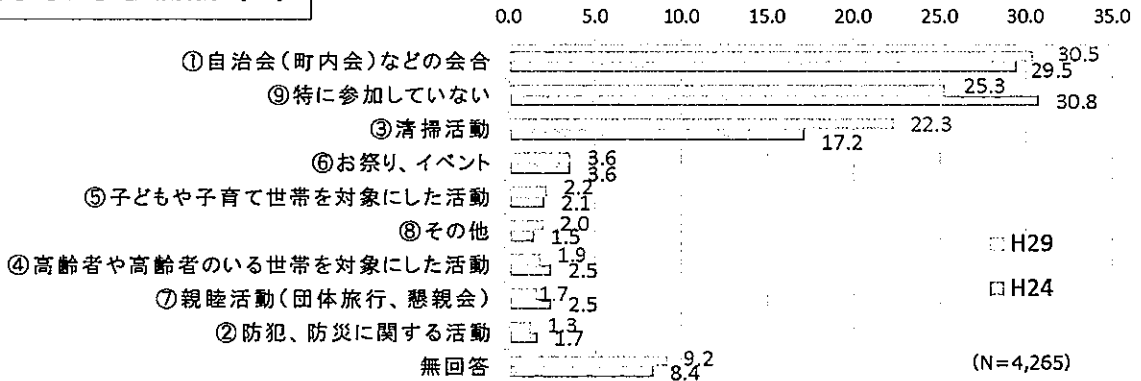
また、6割強（65.5%（対前回比+4.9%））の方が地域活動への参加を行っている。

(1) 地域の自治会（町内会）の加入状況



(2) 最も参加されている地域活動

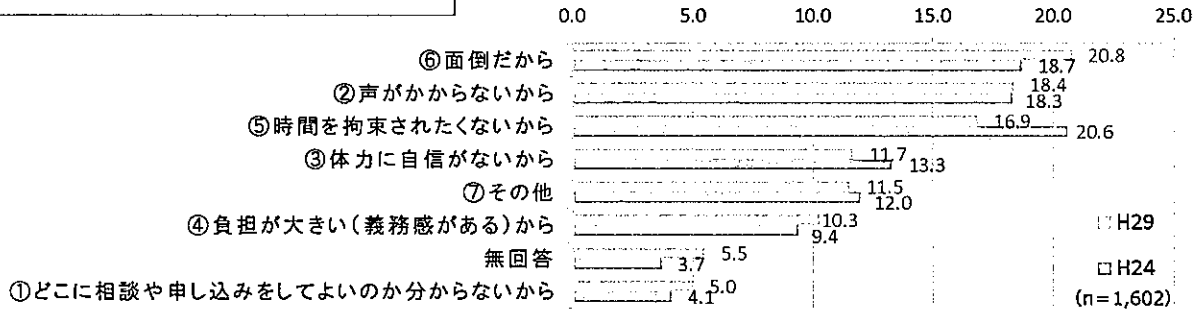
最も参加している地域活動 (%)



(参考) 地域活動(全体)への参加状況(市別) (%)

	鳥取市	米子市	倉吉市	境港市	無回答	4市合計
H29	66.8	59.9	72.8	61.3	60.0	65.5
H24	59.7	57.1	69.9	67.0	45.5	60.6

「特に参加していない」場合の理由 (%)



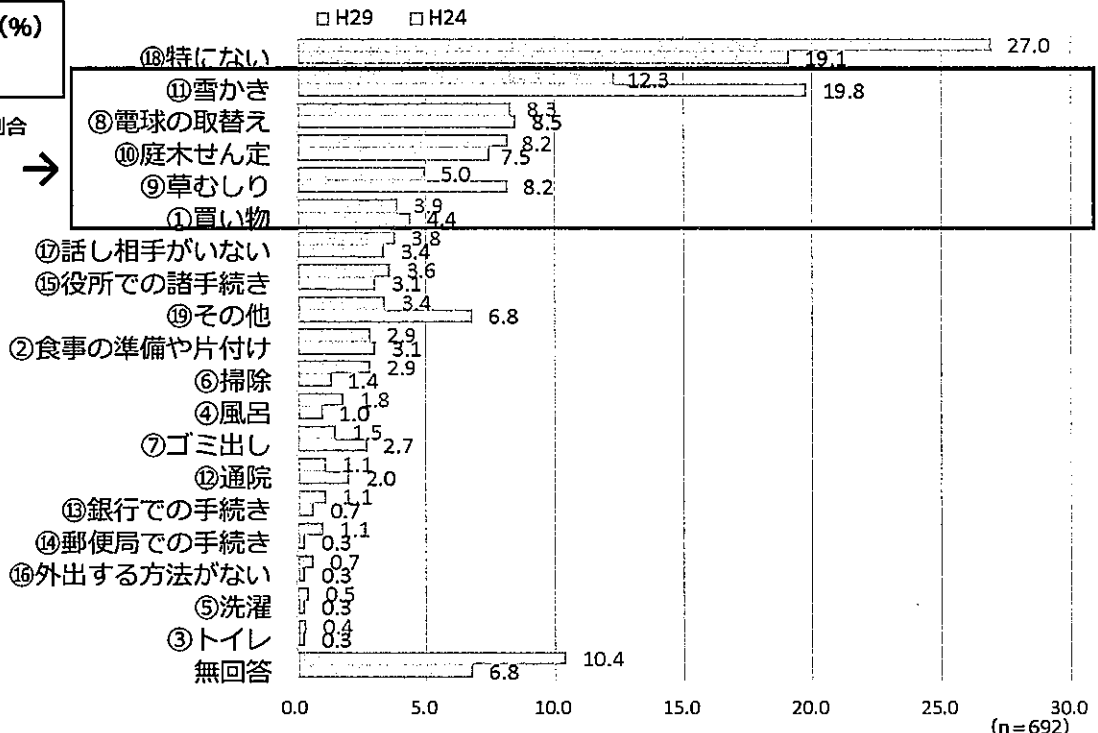
8. 困りごと、不安について (65歳以上の独居世帯の方を対象)

困りごととしては、「特にない(27%、対前回比+7.9%)」の他、具体的な困り事である除雪、電球の取り替え、剪定、草取り、買い物を挙げる方は減少した(37.7%、対前回比△10.7%)。不安については、将来的な健康面での不安を約6割の回答者が抱えている状況。

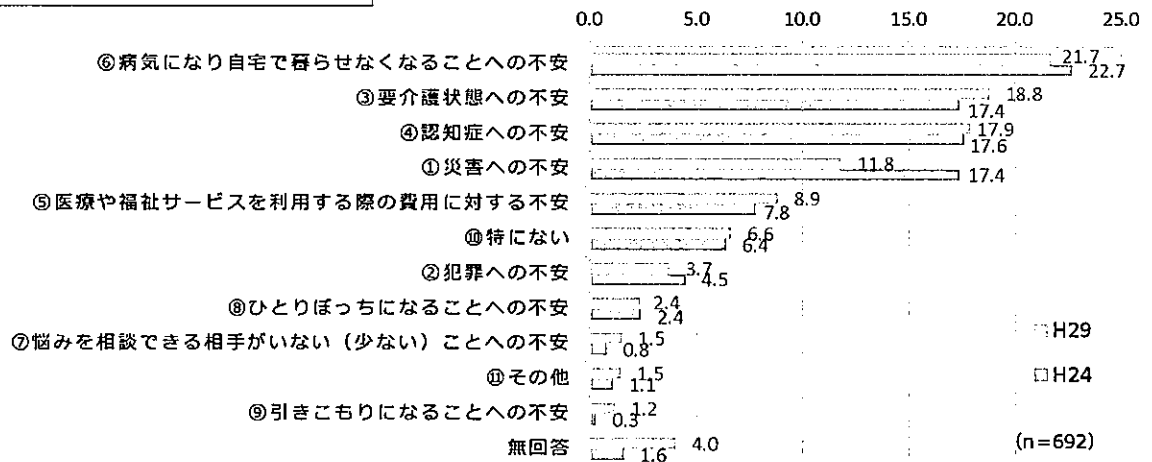
困っていること (%)

(3つまで)

主な困りごとの割合
(5項目の合計)
H29⇒37.7%
H24⇒48.4%



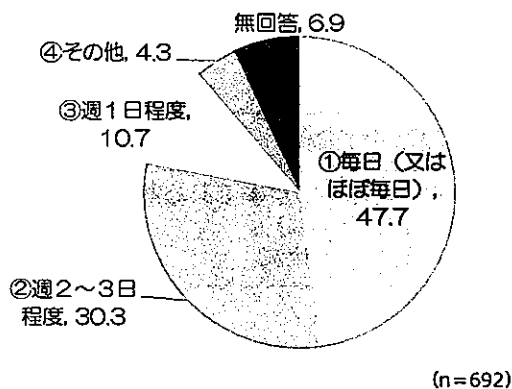
不安に感じていること (%) (3つまで)



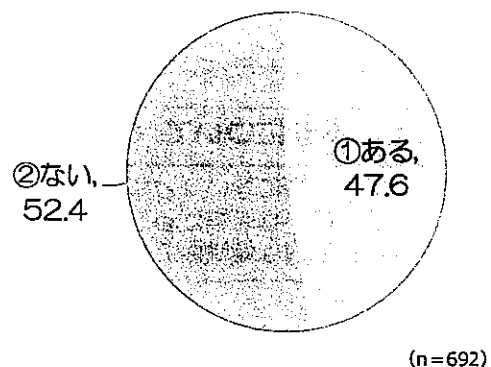
9. 独居高齢者世帯について (65歳以上の独居世帯の方を対象)

毎日あるいは週1日以上外出している独居高齢者が大半(88.7%)を占めている。一方で「憩いの場がない」という回答者が約5割、「地域活動に参加していない」が約4割、「テーマ型コミュニティーへ参加していない」という回答者が約7割ある。

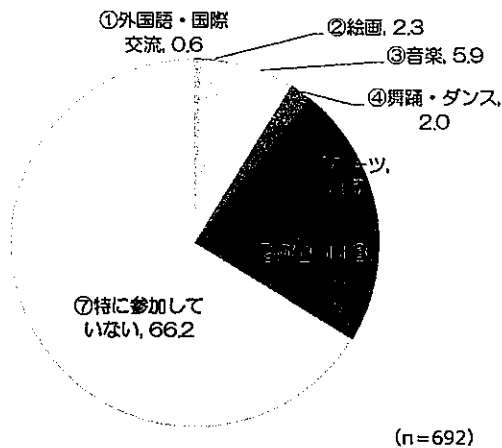
外出の頻度 (%) 【H29新規】



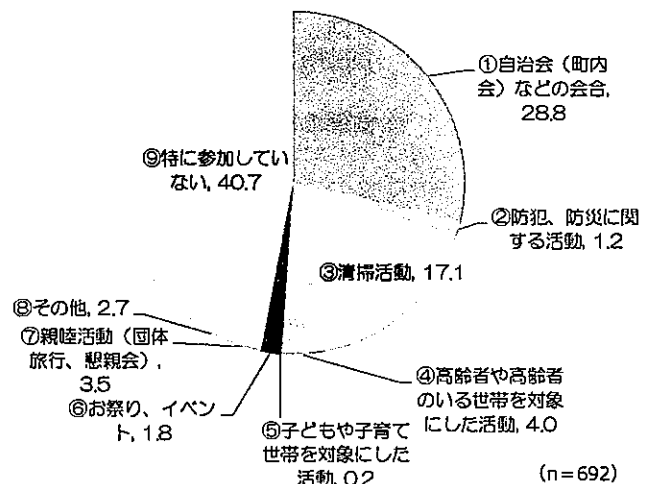
憩いの場の有無 (%)



テーマ型コミュニティーの参加 (%)



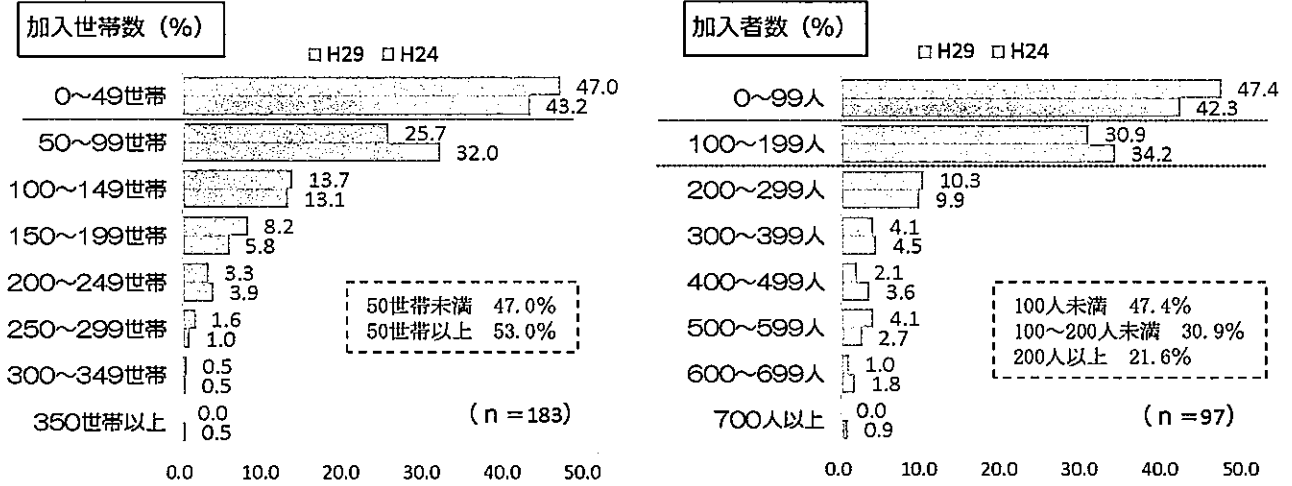
地域活動の参加 (%)



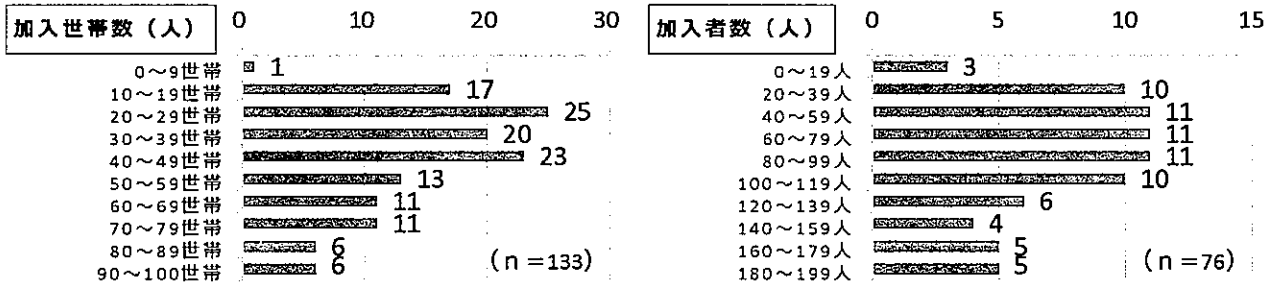
自治会（町内会）調査

1. 自治会の規模について

加入世帯数が20～49世帯、加入者数40～99人の自治会（町内会）が最も多い。
H24年度の調査と比較すると、加入世帯数、加入者数ともに減少していることがわかる。



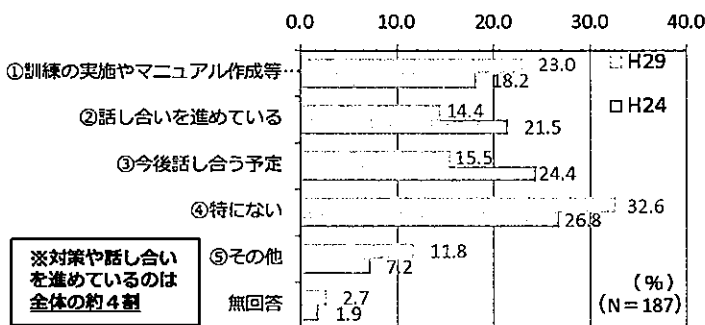
※自治会の規模（加入世帯数100世帯未満、加入者数200人未満）



2. 暮らしの安心（災害等）

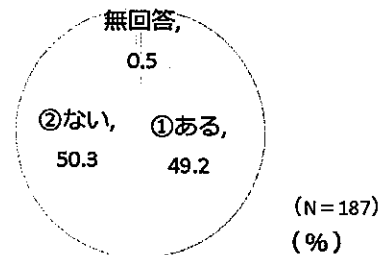
自治会（町内会）で災害等への対策を行っているのは約2割と低水準となった。
また、自主防災組織があると回答したのは約5割であり、除雪への取組を行っているのは約3割弱に留まった。

地震・火災・大雪等の災害への対策や話し合い

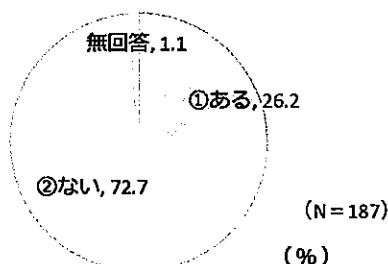


自治会（町内会）の自主防災組織の結成の有無

【H29新規】

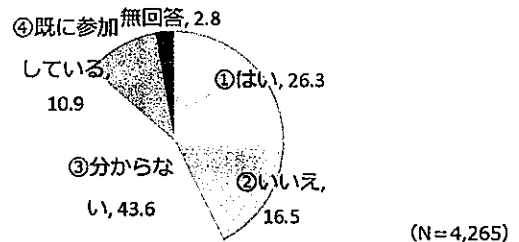


自治会（町内会）で行っている除雪の取組の有無【H29新規】



参考：世帯調査結果より

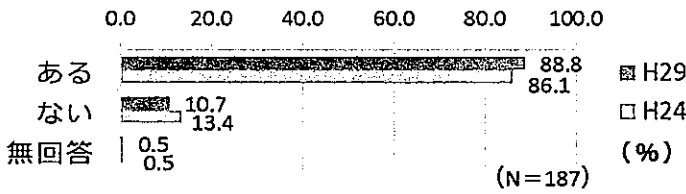
地域に自主防災組織があったら参加するか【H29新規】



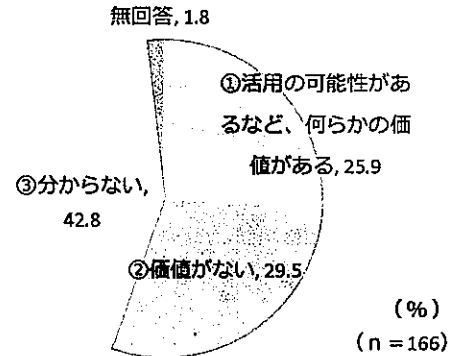
3. 暮らしの安心 (空き家)

空き家がある自治会(町内会)は約9割であり、その1割については「所有者や空き家の理由などが全く不明」の状態である。
 空き家の評価としては、「活用の可能性がある」と回答したのは3割弱に留まっている。

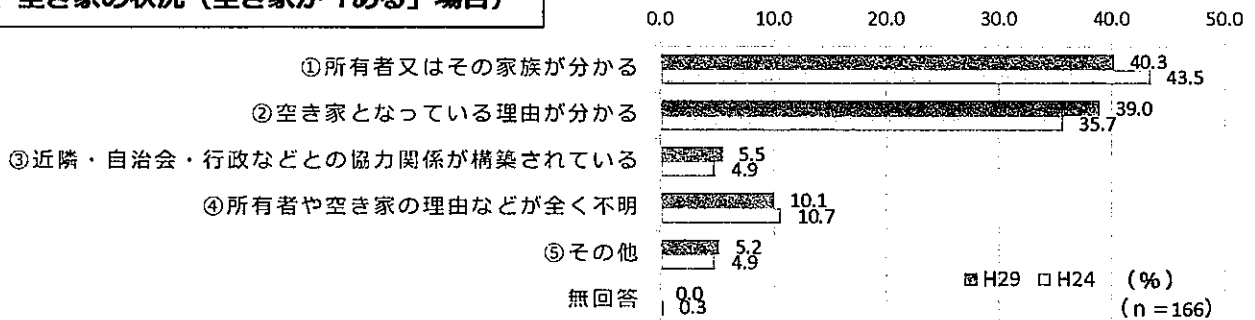
自治会(町内会)区域での空き家の有無



空き家に対する評価 (空き家が「ある」場合)



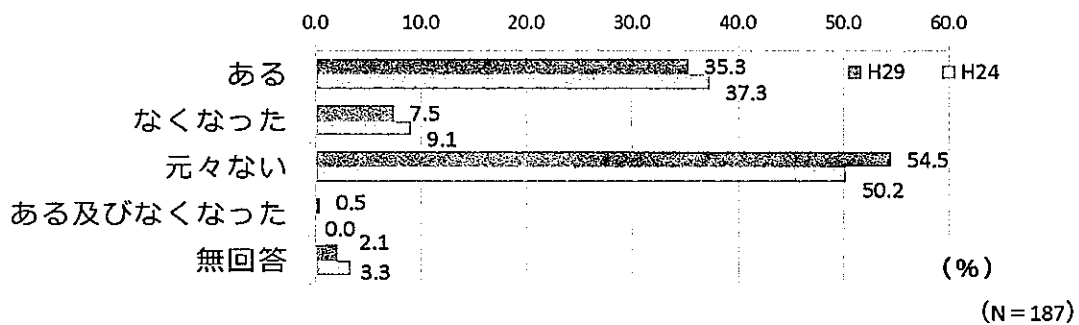
空き家の状況 (空き家が「ある」場合)



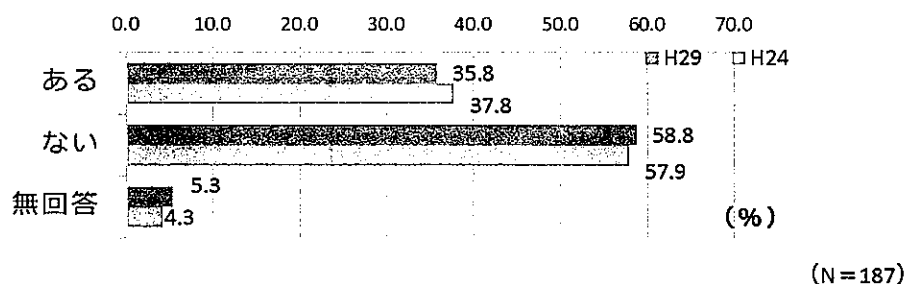
4. コミュニティ

自治会(町内会)区域での、文化的資産やグループがあると回答したのは4割弱あった。
 また、他区域との交流に取り組んでいるのは約2割で、今後取り組みたいと感じている自治会(町内会)は約1割となっている。

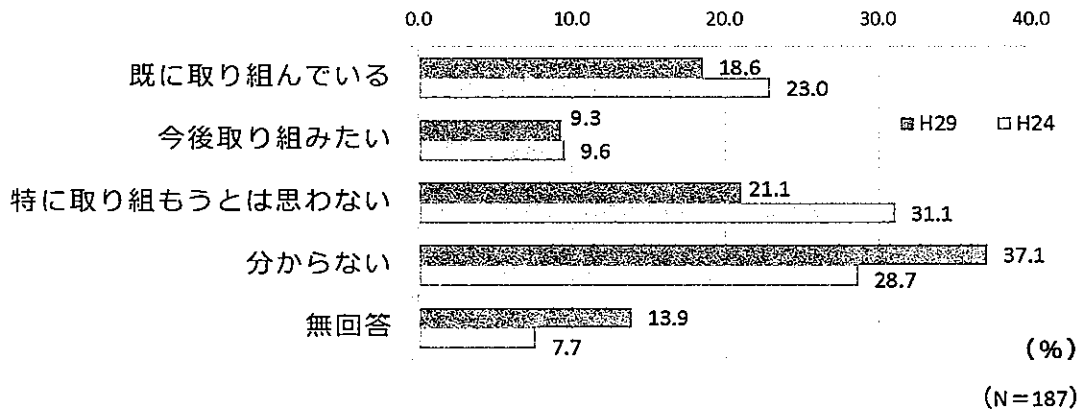
自治会(町内会)区域での固有の文化的資産(伝統芸能、祭など)の有無



その他、住民同士の交流を推進するための地域資源やグループの有無



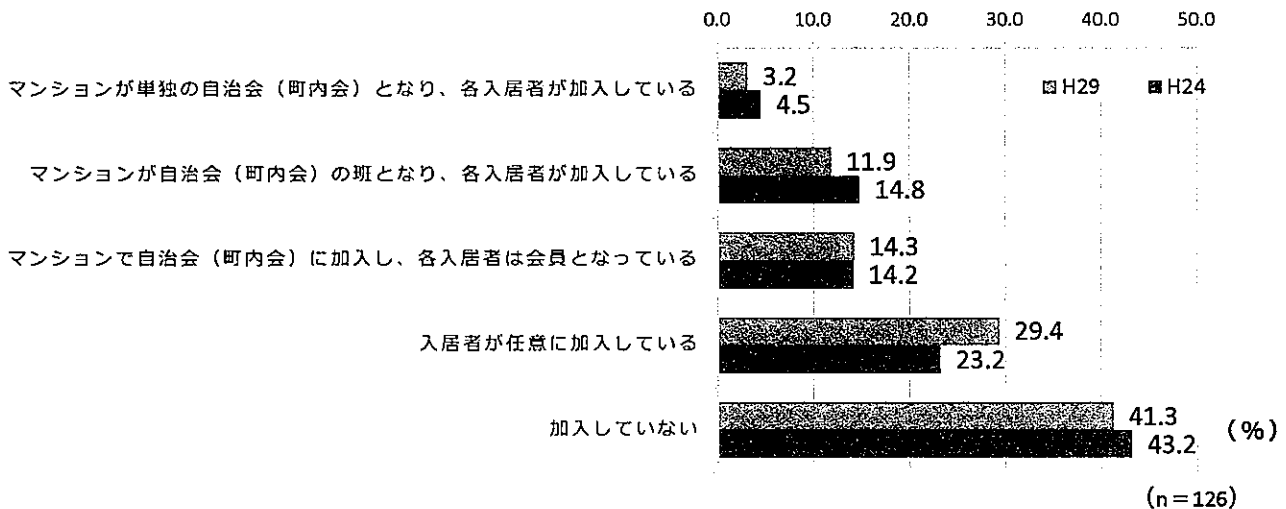
内外問わず住民同士の交流を推進する取組についての意向



5. コミュニティ（区域内にマンション等世帯がある場合のみ）

マンション等世帯の自治会（町内会）への加入状況は、約4割が加入していない。自治会（町内会）からみた地域とマンション等世帯の交流のあり方は、「必要ない」との意見がある一方で、どのような人が住んでいるか把握しておきたい等の理由から、「多少があったほうがよい」と考えている自治会（町内会）が最も多い。

マンション等世帯の自治会（町内会）への加入状況



マンション等入居者と地域住民の方との近所付き合いの今後のあり方

